高等学校日语教材

日本文化概况

主审 横山邦治
编著 崔香兰 张晓华 贺静彬
肖婷婷 邢晓红

大连理工大学出版社

© 崔香兰等 2006

图书在版编目(CIP)数据

日本文化概况/崔香兰等编著.—大连:大连理工大学出版社,2006.5
高等学校日语教材
ISBN 7-5611-3170-4

Ⅰ.日… Ⅱ.崔… Ⅲ.①日语—高等学校—教材 ②文化—概况—日本 Ⅳ.H36

中国版本图书馆 CIP 数据核字(2006)第 043408 号

大连理工大学出版社出版
地址:大连市软件园路 80 号 邮政编码:116023
发行:0411-84708842 传真:0411-84701466 邮购:0411-84703636
E-mail:dutp@dutp.cn URL:http://www.dutp.cn
大连理工印刷有限公司印刷 大连理工大学出版社发行

幅面尺寸:185mm×260mm 印张:9.75 字数:209 千字
印数:1~4 000
2006 年 5 月第 1 版 2006 年 5 月第 1 次印刷

责任编辑:王佳玉 高 颖 责任校对:田 山
封面设计:孙宝福

定 价:19.00 元

序

日本語には、エジプト文明とかギリシャ文明とかローマ文明とか、さらにはインド文明とか中国文明と言う言葉はありますけれども、日本文明という言葉はありません。日本と付けば日本文化と言います。「日本」という固有名詞と、「文明」という一般名詞とがくっ付き難いのです。何故なら「日本」には、「日本」にしかなくて、それで世界の文化に大きな影響を与えたようなものがないらしいのです。

日本文化は、一名月光文化とも言われます。太陽のように、それ自体が光を発するのではなくて、太陽の光を反射するのが月光だからです。日本の文化と言われる諸現象は、古くは中国とインドの文明を取り入れて光を放ち、キリシタン渡来以降は、欧米の文明を取り入れ始め、鎖国によって一時その影響は小さくなりましたが、明治維新以後の文明開化によって大きく欧米の文明を受け入れることになり、また別種の光を放つに至りました。

言ってみれば「日本」という原石が、中国を始めとする各種の文明によってカットされ、極めて複雑な光を放つようになったのが、「日本」の「文化」と言えるのではないでしょうか。ですから日本文化というのは、一言では言い表せない複雑な光を放っていると言えましょう。その光がダイヤモンドのようであるか、ガラス細工のようであるかは、見る人の目によって違ってくるのではないでしょうか。

本教科書は「日本文化概況」と名付けました。日本語を中国の大学で学習を始めた学生諸君が、中国とは国情の違う日本の文化の諸相を、出来るだけ体系的に把握してもらえるようにと考えて記述したものです。三年生段階くらいで学習して頂ければ、日本語学習にも効果的なのではないでしょうか。何故なら、国情の違いから、日本の実態が十分つかめないまま、日本の言葉を誤解しているということも、間々見られる現象だからです。そこに意を用いて、複雑な光を放つ「日本文化」の諸相を、言葉をキーワードにして解説して行ったものですから、言葉の学習にも十分な効用が期待できるのです。勿論これだけで十分というものではありません。極めて重層的と言っていい日本文化ですから、ここに表明されているものを手掛かりにして、更に一層「日本文化」の実態に迫っていただきたいものであります。

国情の違いということを申しましたが、日本文化の基調には、中国文明の反映が極めて強いものですから、「日本文化」の基底を探っていけば、「中国文明」の有

り様にも気付くことがあると思います。日本に茶道というものがありますが、これも宋時代の中国のお茶の趣味が日本に伝来して、やがて安土桃山期の建築や絵画が示すような豪華絢爛たる美の対極とも言える、「侘び」とか「寂び」とか言う言葉で表現される美意識に裏打ちされた茶道が成立して、日本独特の作法として発達したものでした。現在の日本の茶道は、中国と違って随分小うるさい作法によって縛られたものになっていますけれども、そこに「中国文明」と「日本文化」との共通点と相違点を見出せれば、日本語学習にも一層の興味が湧いてくるのではないでしょうか。

日本語を学習しようという皆さんが、何はともあれ、本教科書によって日本語の背景にある、多面的な「日本文化」の実態を意識的に実態的に把握して下されば、本書の編集の目的が果たされたと言えるでしょう。

本教科書編集にあたり、多くの書籍や資料を参考しているが、時間などの関係で、作者と連絡が取れなかったこともある故、ここで改めて深くお礼を申し上げる次第である。

横山邦治

目　次

序……1

第一単元

第一課　日本の地理と気候

1-1　概観……1
1-2　日本の地形と山河……1
1-3　地震と火山……2
1-4　梅雨と台風……3
1-5　雪国……4

第二課　日本の歴史

2-1　概観……7
2-2　律令制と遣唐使……7
2-3　源氏と平家……9
2-4　武士、大名と将軍……9
2-5　戦国時代と幕府……10
2-6　明治維新……12

第三課　日本の宗教

3-1　概観……16
3-2　神道……16
3-3　仏教……17
3-4　キリスト教……17

第四課　日本の言葉と日本の象徴

4-1　概観……20
4-2　日本の言葉と文字……20

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

4-3 敬語と方言 ……20
4-4 天皇制と皇居 ……23
4-5 菊、桜と富士山 ……24

第五課 日本の植物と動物

5-1 概観 ……28
5-2 松、竹、梅、紅葉と楠 ……28
5-3 栗、柿ときのこ ……30
5-4 狐、狸、猿、熊、犬と猫 ……30
5-5 鯛、蛙、鶴と亀 ……31

第二単元

第六課 日本の衣食生活

1-1 概観 ……35
1-2 十二単と着物 ……35
1-3 浴衣と作務衣 ……36
1-4 さしみ、すし、てんぷらとすきやき ……37
1-5 梅干、納豆、味噌と醤油 ……38
1-6 丼物、鍋料理、焼き鳥とおでん ……39

第七課 日本の建築

2-1 概観 ……43
2-2 日本家屋と床の間 ……43
2-3 布団、座布団、正座とあぐら ……43
2-4 こたつ、火鉢、いろり、団扇と風鈴 ……44
2-5 風呂敷、たんす、のれんと風呂 ……45
2-6 畳、ふすまと障子 ……45
2-7 金閣寺と銀閣寺 ……47
2-8 姫路城 ……47

第八課 日本の冠婚葬祭

3-1 概観 ……50
3-2 成人式 ……50
3-3 結婚式 ……51
3-4 葬式 ……52
3-5 仏壇と神棚 ……53

第九課　日本の年中行事

4-1　概観 ……56
4-2　春 ……56
4-3　夏 ……58
4-4　秋 ……60
4-5　冬 ……61

第十課　日本の祝祭日

5-1　概観 ……65
5-2　春 ……65
5-3　秋 ……67
5-4　冬 ……69

第三単元

第十一課　日本の芸能

1-1　概観 ……72
1-2　歌舞伎、能、浄瑠璃、文楽、狂言と日本舞踊 ……72
1-3　三味線、尺八、琴と琵琶 ……74
1-4　落語、講談と漫才 ……75
1-5　民謡、浪花節、童歌と演歌 ……76

第十二課　日本の芸術

2-1　概観 ……80
2-2　日本画、水墨画と浮世絵 ……80
2-3　陶磁器、漆器と日本の人形 ……81
2-4　華道、茶道と書道 ……82
2-5　日本庭園と盆栽 ……83

第十三課　日本の文学

3-1　概観 ……88
3-2　短歌、俳句と川柳 ……88
3-3　『竹取物語』と『源氏物語』 ……90
3-4　『枕草子』と『徒然草』 ……91
3-5　『浮雲』と『蜘蛛の糸』 ……92

第十四課　日本のスポーツと余暇

4-1　概観 ……97
4-2　相撲、柔道と剣道 ……97
4-3　野球、サッカーとゴルフ ……99
4-4　宝くじ、パチンコ、競馬と競輪 ……100
4-5　麻雀、将棋と囲碁 ……101
4-6　温泉と海外旅行 ……102

第四単元

第十五課　日本の政治と外交

1-1　概観 ……105
1-2　憲法と三権分立 ……105
1-3　議院内閣制、内閣総辞職と国会 ……106
1-4　選挙と行政改革 ……107
1-5　裁判所と最高裁判所 ……108
1-6　国際社会の復帰、外交の歩みと非核三原則 ……109

第十六課　日本の経済

2-1　概観 ……113
2-2　工業、農業、水産業と林業 ……113
2-3　国民総生産、国民所得と貯蓄 ……115
2-4　高度成長期、バブル経済の崩壊と日本的経営の崩壊 ……115
2-5　リストラと定年制の崩壊 ……116
2-6　自動販売機とカード会社 ……117
2-7　不良債権、公的資金導入と金融ビッグバン ……118

第十七課　日本の教育

3-1　概観 ……122
3-2　義務教育、学制改革と21世紀教育新生プラン ……122
3-3　学校崩壊と不登校 ……124
3-4　リカレント教育時代、大学と大学院事情 ……125
3-5　日本の新たな留学生政策と留学生の日本における就職状況 ……127
3-6　天理大学付属天理参考館と早稲田大学の会津八一記念博物館 ……128

第十八課　日本の社会生活

4-1　概観 ……132

4-2　中元、歳暮とお返しのマナー ……132
4-3　年賀状、忘年会と暑中見舞い ……133
4-4　核家族、高齢化と少子化社会 ……134
4-5　移動電話、通勤電車と自動車 ……135
4-6　印鑑と名刺……136

第十九課　変わり行く日本

5-1　概観 ……141
5-2　若者の変化 ……141
5-3　日本文化の伝統と未来……142

第一単元

第一課　日本の地理と気候

1-1　概　観

日本列島は、南北に3キロに延びる細長い列島で、4つの大きな島と約4,000ぐらいの小さな島々から成っています。北はロシア本土の東隣に位置し、南はヤシが生い茂る熱帯の島々で、ハワイとほぼ同緯度にあります。列島を大きな背骨を形作るように走る山脈のおかげで、東側と西側で気候が大きく異なります。たとえば、冬、日本海からの湿った空気が日本海側に積雪数メートルの豪雪をもたらす一方、太平洋側では、乾燥した晴天がみられる、といった具合です。さらに、初夏には梅雨と呼ばれる雨季があり、秋と初冬には熱帯性暴風雨の台風が来襲します。

日本の地勢上好ましくない点と言えば、地震と火山噴火がよく起こることです。昔は、地震と噴火、そして厳しい気候は神様のたたりだと信じられてきました。自然と調和して生きることが日本人の重要な精神の１つになっていることを理解するのは難しいことではありません。

20世紀後半の日本の急速な経済発展は、ひどい環境破壊を引き起こしました。幸い、大量の降水量と急流の短い河川が四方の海へと注いでいることで、浄化が進み、自然環境の回復が促進されました。日本はその地勢的条件のおかげで、ある程度まで環境問題を克服してきました。しかしなお、国土の乱開発は続いています。古い時代の日本人なら、1995年の阪神淡路大震災は神からの警告だと考えたかもしれません。もっと最近の例では、日本の最高峰、富士山でのマグマ活動の兆候です。噴火が起これば、２千万以上の人々が影響を受けることになるでしょう。今こそ、「自然との調和」という考え方を思い起こすべき時なのかもしれません。

1-2　日本の地形と山河

【日本の地形】(にほんのちけい)

日本は北東から南西に長く伸びた弧状の列島で形成されています。日本の総面積は37万2,461平方キロメートルです。それは約23万平方キロメートルの本州と、その三分の一の北海道、さらにその半分ほどの九州島、またその約半分の四国島といった四つの主島から成り立っています。ほかにこれらの主島に付随して大小あわせて4,000ぐらいの島島が散在分布しています。沖縄を主体とする南西諸島を加えれば、その長さは3,500キロになります。日本列島は、太平洋や日本海などの海に囲まれ、大陸とは浅い大陸棚で接しています。太平洋側には、非常に深い日本海溝や伊豆小笠原海溝があります。日本には、いくつかの火山脈が走っているので、地形は変化に富み、川は短く急流で、山あいでは深い峡谷を形成し、海岸線は複雑に入りくんでいます。風光明媚なところが多く、温泉地も点在しています。

【山河】(さんが)

日本国土面積の61パーセントは急峻な山岳地帯で、森林に覆われています。一方、人が住める平野や山間の盆地を合わせた平地の面積は24パーセントですが、ここに人口の65パーセントが集中しています。そのため美しい山々と豊かな緑に恵まれている反面、居住可能面積当たりの人口密度は世界有数となっています。

農業用地は14%、工業用地にいたっては、わずか0.4%にすぎません。

本州の中央部には、飛騨・木曽・赤石の三つの山脈があり、3,000m以上の山々がそびえています。これらは、それぞれ北・中央・南アルプスとも呼ばれ、総称して日本アルプスとか、日本の屋根ともいわれています。これは、1896年に、イギリス人のウェストンによって名付けられたものです。

日本の平野をつくりあげた河川(かせん)は諸外国に較べると短小で、その流域面積もまた僅少(きんしょう)です。しかしいかに流程が大であっても、中国の江の川や四国の四万十川のように山間のみを流れる先行性の河川は、ダムが造られない限りは人文の役には余り立ちません。

またこのような山間盆地を流れる先行性の河川でも東日本の場合は雪解けの水などが残っていて、渇水(かっすい)することなく、たとえダムを作っても、その保水量に年間の変化はないが、西日本のそれは水位に変化をもたらし、ことに夏期(かき)には水面が低下します。つぎに流域面積にしても北海道の釧路川や十勝川のように、平野に泥炭層が多いところを流れるのでは河川のもつ利用価値は少ないです。それはともなく、まず日本において最大の河川は信濃川の三百六十七キロメートルにはじまり、第二位は利根川の三百二十二キロメートル、第三位は石狩川(二百六十八キロメートル)第四位は天塩川(二百五十六キロメートル)の順となりますが、上流に名寄盆地をもつ天塩川は北の宗谷海峡に流れ、信濃川は上流に長野盆地を形成します。これに対して流域面積では、利根川が第一位で一万六千四百八十平方キロメートル、ついで石狩川(一万四千三百平方キロメートル)、信濃川(一万二千五十平方キロメートル)、の順となり、よく日本の三大河川と称しています。

1-3 地震と火山

【地震】(じしん)

日本は環太平洋火山帯に属しています。地震(じしん)プレートテクトニクス理論によれば、日本列島付近では、太平洋プレートがあるそうです。

日本は古来地震と火山、台風の多い災害の国で、今もなお活動を停止していない、活火山や休火山も少なくないのです。世の中の恐ろしいものの順位を、日本人はユーモアを交えて「地震、雷、火事、おやじ」と表現します。地震は恐ろしいものの第一に挙げられるほど被害が大きく、また日本列島各地で頻繁に発生します。日本の都市部においては、木造建築物の多い密集市街地が広い範囲で存在し、都市域が地震に見舞われると、大火災の発生のおそれのあることが、日本の地震被害の特徴の一つとなっていました。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

1923年の関東大震災では、家屋倒壊と火災により約9万人が死に、1995年1月の神戸の大震災では死者、行方不明者6427名を記録しました。今日の都市は、巨大化し、情報通信網、交通網と多量の車両、ガスや電気などのライフラインなど都市のネットワークが複雑かつ高密に発達しています。さらに石油コンビナートなどの危険物施設や悪い地盤での住宅開発など、地震の被害を大きくする可能性を秘めているものも少なくありません。

地震の被害者を最小限に食い止めるために、日本では地震予知の研究が進み、また建造物にも世界最高水準の安全基準が設けられています。

【火山】(かざん)

地震地帯にほぼ重なるようにして火山地帯が日本列島を走り、世界でも最も地震、火山活動が活発な地域を形成しています。各地の火山はときどき大噴火をして山麓に被害をもたらします。1991年から続く長崎県の雲仙普賢岳の噴火はふもとの町を火砕流と土石流で襲い、全滅の危機に陥れています。富士山も歴史的に何度も大爆発を起こしていますが、やがてまた爆発するだろうと言われています。この火山は日本列島に被害をもたらすだけでなく、各地に温泉を湧出せしめて、人々の健康に寄与しています。温泉は古くからさまざまな病気に効くことが知られ、各地に湯治場が形成されています。

1-4　梅雨と台風

【梅雨】(つゆ)

日本では春の天気から夏の天気へ移り変わる時期に、梅雨という、うっとうしい雨の多い季節を経たなければなりません。夏に向かって太平洋方面の気圧が高くなるが、一方シベリア方面の気圧がそれほど低くならないので、日本に沿って気圧の谷ができて、ここを低気圧がよく通り、梅雨前線がよくできて、雲雨天の日が多くなります。梅雨型の気圧型の気圧配置になる時期を入梅といい、暦の入梅は六月十一日ですが、実際の気象の入梅は年によってちがい、早い年は五月下旬、おそい年は六月半ばです。また梅雨のあけるのは、だいたい七月十日ごろですが、これも年によって十五日ぐらい早くなったりおそくなったりします。夏には太平洋の高気圧の勢力が強くなるので、梅雨前線が北上して、梅雨があけると、暑さのきびしい本格的な夏となります。梅雨中にはオホーツク海方面に高気圧が発達して、ときにはこの高気圧が著しく発達して日本海の方へ張り出します。また東太平洋に高気圧が発達することもあります。こういうときには、北東ないし北寄りの風が吹いて気温がさがります。梅雨末期に当たる六月下旬から七月上旬にかけてはよく集中豪雨が降ります。梅雨明けが早い年には干ばつの傾向があり、逆に遅れると、北日本は凶冷となることが多いです。

【台風】(たいふう)

八月は前半はわりあいに良い天気が多いですが、後半になると天気が悪くなります。これは太平洋の熱帯性低気圧が発達して大きな勢力を持ち、日本を襲うようになるからです。台風は

夏から秋にかけて毎年多くの風水害を日本列島にもたらします。日本の風水害の80は台風によるものです。風による被害としては建造物破壊、作物減収、塩風による送電線の故障などあり、豪雨による被害は建造物の浸水、流失、土滑り、山崩れ、土石流などがあります。アメリカのハリケーンなどと比較して日本の台風被害の特色を挙げれば、急峻な山岳地帯のために起きる土滑り、山崩れなどが多いということでしょう。毎年このために何人もの死者が出たり、家屋が破壊され、交通が遮断されたりします。

1-5 雪国

「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」——これは、ノーベル賞作家、川端康成の名作『雪国』の冒頭部の有名な1節です。この表現は日本の地形をもよく表しています。冬はシベリアから吹く冷たい季節風が、本州中央部を北東から南西へ連なる山脈にぶつかり、日本海側に大雪を降らせます。山脈の太平洋側にはあまり雪は降りません。そのため太平洋側から日本海へトンネルを抜けるといきなり深い雪の積もった雪国が劇的に出現するのです。このように雪国とは本州の日本海側一帯と東北地方及び北海道全域を指します。雪が降ると景色が素晴らしいですが、現実の生活は非常に厳しいです。普通の家の屋根に雪が一メートル積もると、三十トンぐらいになるので、雪下ろしをしなければなりません。毎年雪処理も問題になっています。

猛烈な暴風雪や大雪で、高速道路・国道などは一時通行止め、新千歳空港では、ほとんどの便が欠航したこともあまりました。

語　釈

①【背骨】(せぼね)　背中の中央を頚(くび)から腰まで通っている骨。

②【来襲】(らいしゅう)する　不意に寄せて来ること。

③【大陸棚】(たいりくだな)　大陸周辺に広がる傾斜のゆるい海底。深さは平均約200メートル。魚場となっているところが多く、また地下資源も豊富。

④【急峻】(きゅうしゅん)　傾斜が急な様子。

⑤【信濃川】(しなのがわ)　新潟県を貫流する川。上流の長野県では千曲川と呼ばれる。秩父山地の甲武信岳に発し、日本アルプスに発する犀川を合わせ、長野県を北東流し、越後平野を形成、新潟市で日本海に注ぐ。河港長岡を発達させ、発電、農業、工業用水に利用される。

⑥【利根川】(とねがわ)　関東地方を西北から南東流す川。三国山脈の丹後山に発源し、赤谷川、吾妻川、渡良瀬川、鬼怒川など支流285を合わせ、関東平野を貫き、銚子市で太平洋に注ぐ。下流域には霞ケ浦、北浦、印旛沼など湖沼地帯をつくる。

⑦【石狩川】(いしかりがわ)　北海道の中央部の石狩岳に源を発し、石狩平野を流れ石狩湾に注ぐ北海道第一の川。典型的な自由蛇行を示している。

⑧【プレートテクトニクス】(構造地質学)　海嶺と海溝の間の地殻を一枚の板(プレート)と考え、地殻の構造を板の動きとしてとらえようとする、地球の地体構造に関する仮説。

⑨【ユーラシアプレート】　ヨーロッパとアジアの総称。欧亜大陸、東は北太平洋、南はインド洋、西は太平洋に接する大陸の固体地球の表層を覆う厚さ約100Kmの硬い層。

⑩【日本海溝】(にほんかいこう)　太平洋北西部、千島カムチャッカ海溝と伊豆小笠原海溝の中間にある東北日本の沖合の海溝。最深部は8412メートル。

⑪【相模トラフ】　相模湾にくい込んでいる舟状海盆、舟底の形に似た深海底。地震との相関で注目されている。

⑫【土石流】(どせきりゅう)〔名〕山崩れで、土や石が濁流に交じって流れてきたもの。

⑬【遮断】(しゃだん)する　道などの交通路をさえぎって、行き来をさせないようにする。

練習問題

1、日本の地形の特色をまとめなさい。
2、日本の屋根と言われる山脈を三つあげなさい。
3、日本の島の広さベスト四をあげなさい。
4、日本の河川の長さベスト三をあげなさい。
5、日本における地震の特徴を言いなさい。
6、梅雨の成因をまとめなさい。
7、日本の台風被害の特徴をあげなさい。
8、なぜ雪国での生活は厳しいと言っていますか。

課外読み物

(一)富士山は火山だって

J:週末に富士山に登ったんですって?どうだった?

F:よかったよ。でも、体中が痛くて。あんなに大勢の人が登っているのには驚いたよ。

J:そうね。富士山はたいていの日本人が一生に一度は経験するというぐらいのものだもの。それに、夏の間しか登山道が開放されてないのよ。富士山が日本で一番高い山だということは知ってたの?

F:うん。でも、活火山だってことは知らなかったな。頂上で大きな噴火口を見たよ。

J:そうなの。富士山はここ300年近く噴火していないけど。日本は火山が多い国で、その多くが活火山なのよ。

F:山と言えば、スキーシーズンはいつ頃から?

J:ほとんどのスキー場は12月にオープンするわ。2月には札幌で雪祭りがあるのよ。

F：ハイキングとか、街を歩き回るのに一番いい季節はいつかな？

J：春ね。とくに桜の花が咲き始めるころなんかいいわね。私の好きな季節は10月と11月。そのころはたいてい、すずしくてからっとした天気が続くのよ。

F：夏はどう？

J：夏は暑くて湿度が高いときが多いわ。でも、夏は、あちこちで地元のお祭りがあるの。特に8月。日本語で「祭り」と言うのよ。

(二)介護保険

新しい制度として介護保険制度を設けることになり、そのための法律が1997年に成立した。介護保険制度は2000年4月から始める予定で、準備が進められている。

介護保険の対象となる国民は40歳以上の国民である。ただし、2つのグループに分けられる。第1グループは65歳以上の高齢者で、介護を必要とする状態になれば介護サービスを受けられる保険料は原則として公的年金から天引きで徴収される。

第2グループは40歳から64歳までの世代で、初老期痴呆症や脳疾患など特定の老化に伴う病気や障害の場合にだけ、介護サービスを受けられる。保険料は、それぞれが加入している医療保険の保険料に上乗せして徴収される。サラリーマンなら会社の健康保険料と一緒に、自営者は国保の保険料と一緒に払う。

国民は、介護サービスを受けたいとき、住んでいる市町村に要介護認定の申請をする。すると、市町村の調査担当者が家庭を訪問して、本人や家族から話を聞き、要介護の程度を調べる。その結果が、医師や看護婦、福祉担当者による介護認定審査会に報告され、介護サービスを提供すべきか否か、提供する場合はどの程度のサービスとするか、を判定する。

提供されるサービスは要介護の程度によって、ホームヘルパーの訪問回数などに差がある。それを金額に換算して、現在の物価水準で6段階に分けて示される。その金額の範囲内で、本人と家族がホームヘルパーの訪問回数や特別養護老人ホームのデイサービスに行く回数を、専門家と相談しながら、好きなようにきめられる。施設に入る場合は、認定された範囲内で施設の費用が支給される。

利用者は費用の1割を利用料として負担する。施設に入る場合はほかに食費も負担する。認定された費用を越える部分は、全額が自己負担となる。

介護保険の財源は1割の利用料のほか、残る9割の費用のうち半分が保険料、半分は公費負担である。公費負担の半分は国が、あとの半分は都道府県と市町村が負担する。

第二課　日本の歴史

2-1　概　観

国の歴史を簡略に語り尽くすことは、たやすいことではありません。日本国内の多くの豪族が統一されたのは４世紀ごろだと考えられています。その時、現在の天皇の祖先が大和朝廷と呼ばれる中央政府を確立しました。しかしながら、天皇が政治的権力を実際に握ったのはわずかな期間でした。神格化され、世俗的な政治を超越した存在だったのです。たいてい、実権は天皇から与えられる形で、その時代の最も強力な政治的指導者が握ったのです。

平安時代（794－1192年）には、都が奈良から、今日の京都である平安京へと移されましたが、この間は朝廷が日本を支配し、また、多くの文化が日本独特の特徴を備えるようになった時期でもありました。絵画、文学作品、さまざまな仏教美術がこの時期に作り出されました。平安時代も終わりに近づくにつれ、侍と呼ばれる武士が次第に力を蓄えていき、ついには全国を統治する権力を手中にすることになりました。

鎌倉時代（1192－1333年）から江戸時代（1603－1867年）は、日本はおもに、将軍が率いる幕府と呼ばれる軍事政権が支配した時代でした。14、15、16世紀は政治は安定せず、下剋上の内乱に彩られた時代です。16世紀半ばには、ヨーロッパから鉄砲とキリスト教がもたらされました。16世紀後半には、織田信長と豊臣秀吉によって、国は再び統一へと向かいました。

武士が支配する時代には、文化は武家社会を中心に栄えました。禅と能が繁栄し、生け花や茶の湯も発展しました。大きな寺社や城郭も建てられました。江戸時代は、江戸（1868年に東京と改称）を本拠地とした徳川幕府の治世です。この時代は、鎖国と呼ばれる孤立政策によって特徴づけられます。日本独特の文化が外国の影響をほとんど受けずに発展したのです。歌舞伎や浮世絵、相撲が盛んになったのもこの時代でした。

日本の近代は、19世紀半ば、浦賀沖に突如現れた米国の「黒船」艦隊、その圧力の前に、幕府が開国を余儀なくされたことに端を発します。そして明治維新。日本は近代国家に向けて一気に走り出します。明治政府の急激な近代化政策、さらに中日甲午戦争、日露戦争を経て、日本は軍事強国へと変ぼうしていきます。しかし、それも太平洋戦争での敗戦によって水泡に帰し、日本の戦争はマイナスからのスタートとなりました。そして連合国の占領下時代を経て、今度は経済の分野でみごとに世界第２位の力を持つまでになりました。

2-2　律令制と遣唐使

【律令制】（りつりょうせい）

律令の基本思想は、儒家と法家の思想です。儒家の徳治主義に対して、法家は法律を万能と

する法治主義です。古代中国には、国家や社会秩序を維持する規範として、礼、楽、刑(法)、兵(軍事)がありました。儒家は礼・楽を、法家は刑・兵を重んじました。刑の成文法として律が発達し、令はその補完的規範でした。次第に重要性が増して、律から独立し行政法的なものになりました。

日本の律令制度は、中国のものを参考に作られました。唐の律令をそのまま受け入れたので、日本の国情に則さないものが多かったです。徐々に修正を加えて日本の国情に合うような律令を完成させるまでには、かなりな年月を費やしました。大化の改新(645年)以後に中央集権を目指して律令制の導入が始められました。

中国では618年に隋が滅び、唐が興りました。聖徳太子の死後、豪族たちの争いが一層激しくなった日本では、唐や新羅のような強力な国家を作ろうとしました。

645年に、中臣鎌足(古代の氏族。後の藤原鎌足)や中の大兄皇子(後の天智天皇)は、「土地を国家の所有とする」「地方の行政区画を定める」「戸籍を作り、一定の土地を授ける班田収授法を定める」などの新しい中央集権国家のあり方を示しました。この年、中国に習って初めて元号(年号)を採用し、「大化」と称し、都を飛鳥から京都に移しました。(孝徳天皇の下で、天皇中心の政治体制を目指した一連の改革を大化の革新という。)

文武天皇の701年(大宝元年)に、班田収授法などを盛り込んだ政治と行政の新しい仕組みを定めた大宝律令という法律が制定されました。律令の「律」は現在の刑法、「令」は行政法、民法、商法に当たります。こうして、律令国家としての形を整えていきました。

【遣唐使】(けんとうし)

710年、朝廷は唐の都、長安(現在の西安)に習って、大規模な都を築くことになり、それまでの藤原京(現在の奈良県橿原市付近)から平城京(現在の奈良市から大和郡山市周辺)に都を移しました。

中国の進んだ制度や文物を学び、これを導入するために、朝廷では公式の使節として遣唐使を派遣しました。実際に渡海したのは16回に及ぶという。奈良時代になると、ほとんどの場合、4隻の帆船(はんせん)で編成されていたことから「よつのふね」と呼ばれていました。その航海には多くの危険と苦難を伴いました。

天平勝宝2(750)年に任命された遣唐使は、藤原清河、副使は大伴古麻呂でした。この翌年には吉備真備も副使に追加任命されました。遣唐使は、その出発に先立って、春日山のふもとで神を祭るならわしでした。この時に光明皇后から藤原清河に賜(たま)わった歌が万葉集に収められています。

使者たちは、唐の都である長安におもむき、正月の拝朝賀正の儀に参列しました。天平勝宝5(753)年11月、一行は4隻の船に分乗して、江南地方の港を出帆しました。この中には、すでに養老元(717)年に吉備真備とともに留学生として中国に渡っていた阿倍仲麻呂や、天平5(733)年に栄叡らと共に中国に渡っていた僧普照、また5度の失敗を重ねながらも更に渡航を試みる鑑真とその弟子ら23人いました。

大伴古麻呂、鑑真らの乗った第2船は、天平勝宝5年12月に、薩摩国(さつまくに)の坊津に

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com